

2020年度 Unity講座(基礎編)



07回目

講師：幸田 将伍 (@MagurodonDev)

今回の講義の目的

2

- ▶ プログラムを自分で読めるようになる
- ▶ Unityを使って自分が実現したいことをできるようになる
- ▶ 自分一人でもゲームを作成できるレベルになる
- ▶ Unityの活用事例を学び、自分の進路に役立てる
- ▶ 実際のエンジニアがどういった仕事の進め方をしているかを知る
- ▶ ゲーム会社のクライアントエンジニアとして就職できるレベルになる

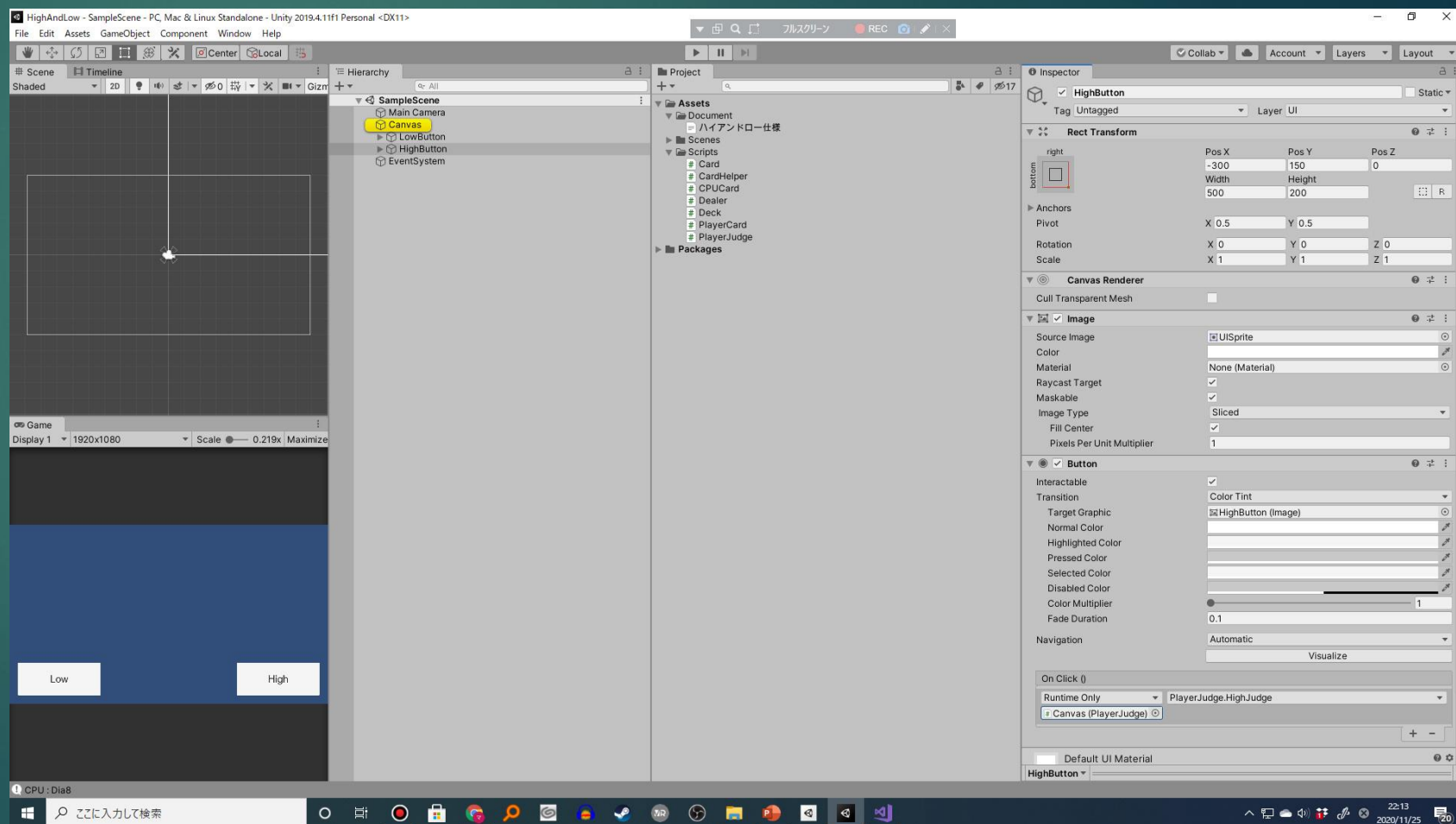
一緒にレベルアップして行きましょう！

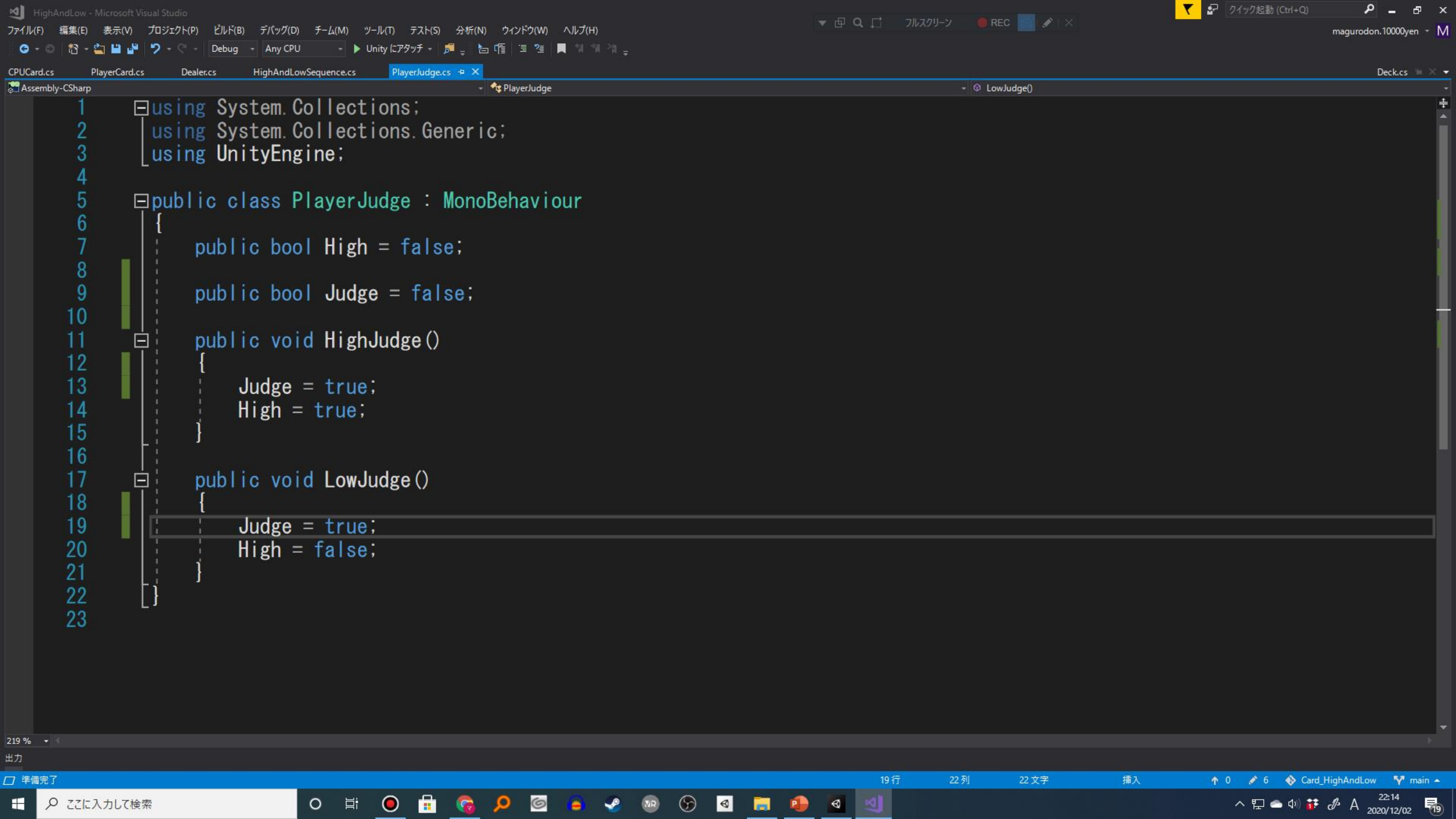
Unity

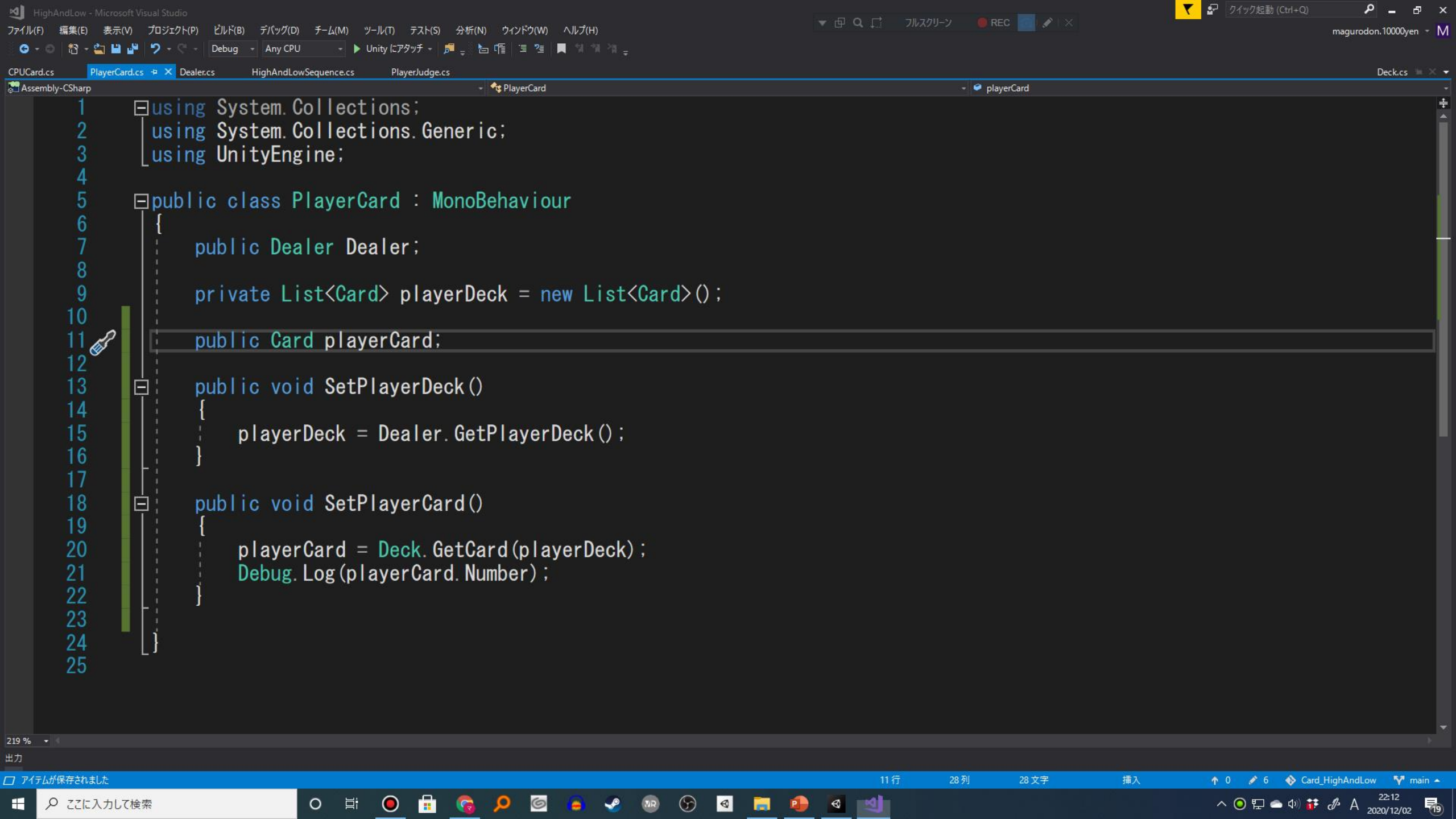
ハイアンドロー

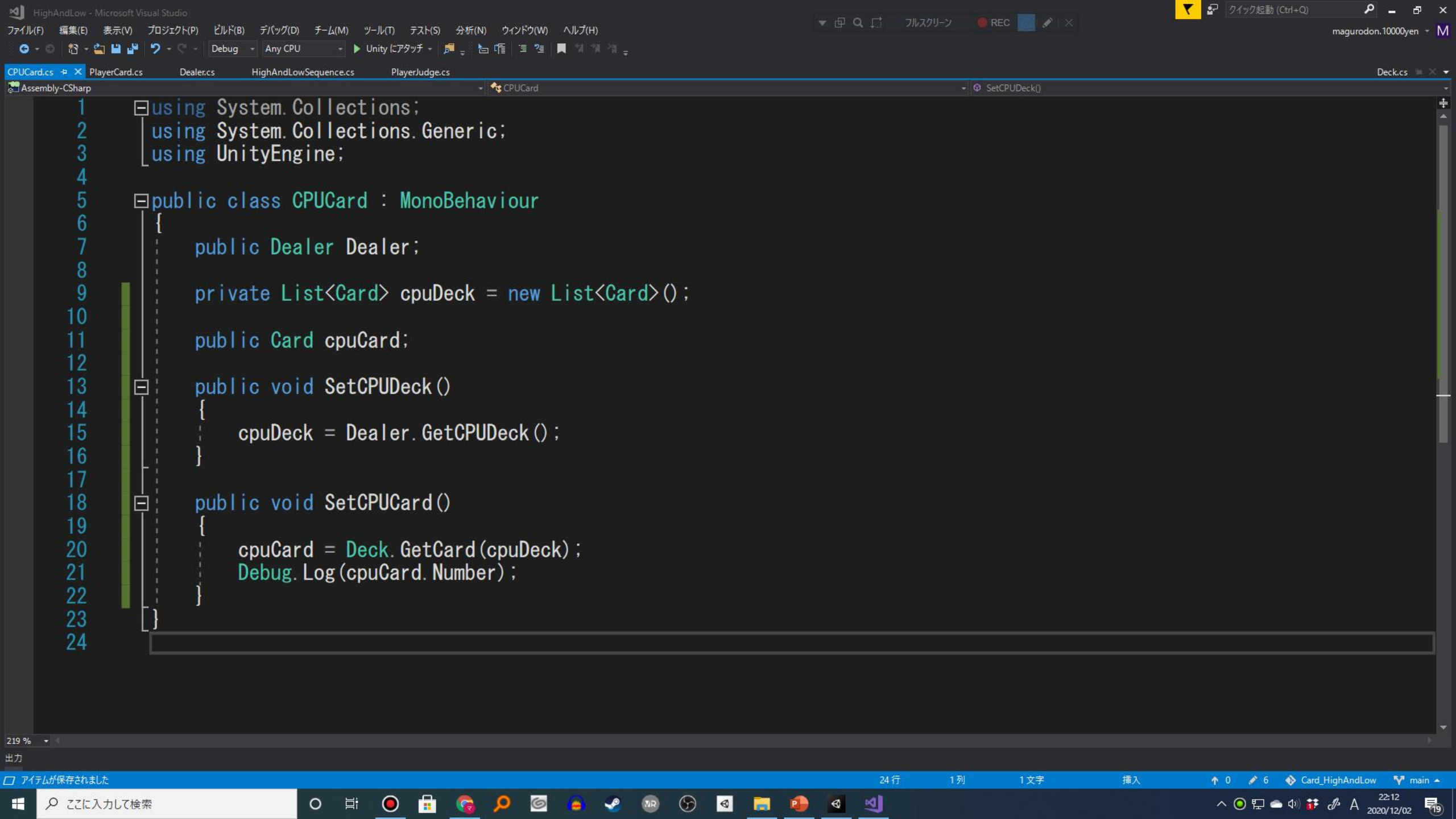
3

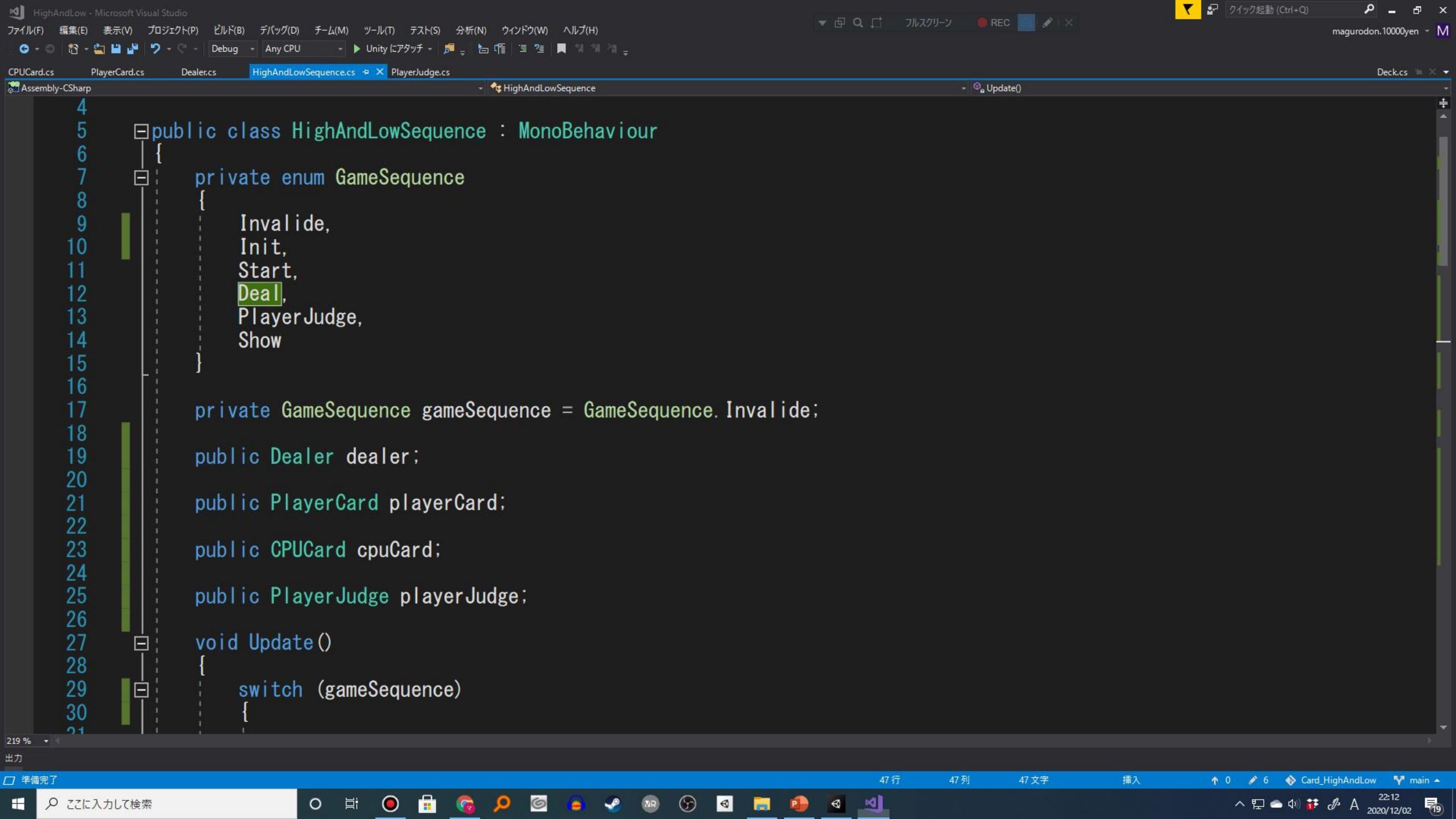
- 前はシーケンスのスク립トを作成しました
- 今回はシーケンスを完成させたうえで、トランプの描画をしていきます
- PlayerJudge.cs
- PlayerCard.cs
- CPUCard.cs
- HighAndLowSequence.cs
- ざっとこのスク립トたちを修正していきましょう

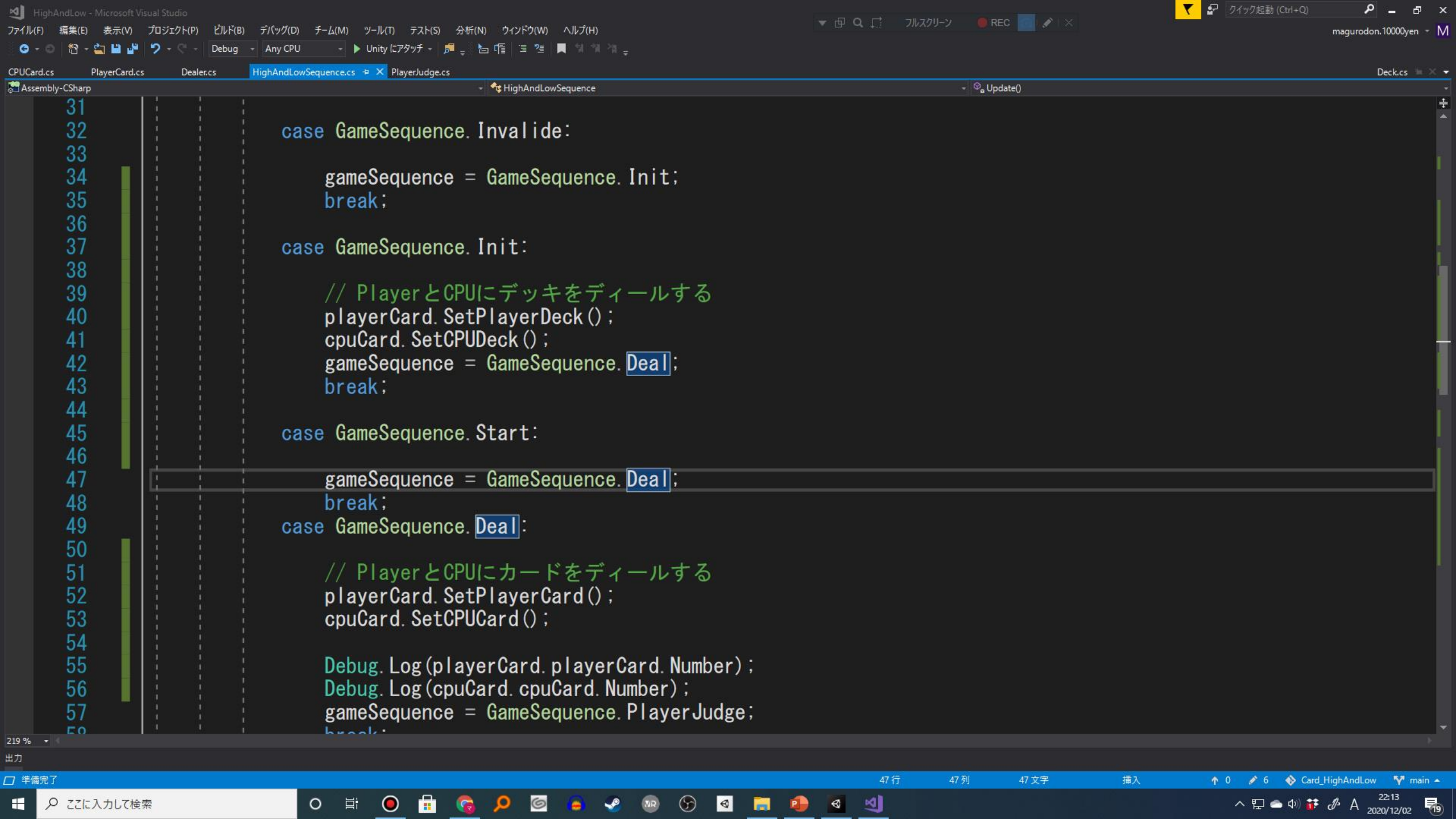












HighAndLow - Microsoft Visual Studio

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ビルド(B) デバッグ(D) チーム(M) ツール(T) テスト(S) 分析(N) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

Debug Any CPU Unity にアタッチ

フルスクリーン REC

クイック起動 (Ctrl+Q)

magurodon.10000yen

CPUCard.cs PlayerCard.cs Dealer.cs HighAndLowSequence.cs PlayerJudge.cs Deck.cs

Assembly-CSharp HighAndLowSequence Update()

58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85

```
break;
case GameSequence.PlayerJudge:

    // 数を予想してボタンを押したらShowに進む
    if (playerJudge.Judge)
    {
        gameSequence = GameSequence.Show;
    }
    break;
case GameSequence.Show:

    // プレイヤーが確認したらStartに戻って次のゲーム

    if (playerJudge.High)
    {
        if (playerCard.playerCard.Number > cpuCard.cpuCard.Number)
        {
            Debug.Log("勝ち");
        }
        else
        {
            Debug.Log("負け");
        }
    }
    else
    {
        if (playerCard.playerCard.Number < cpuCard.cpuCard.Number)
```

219 %

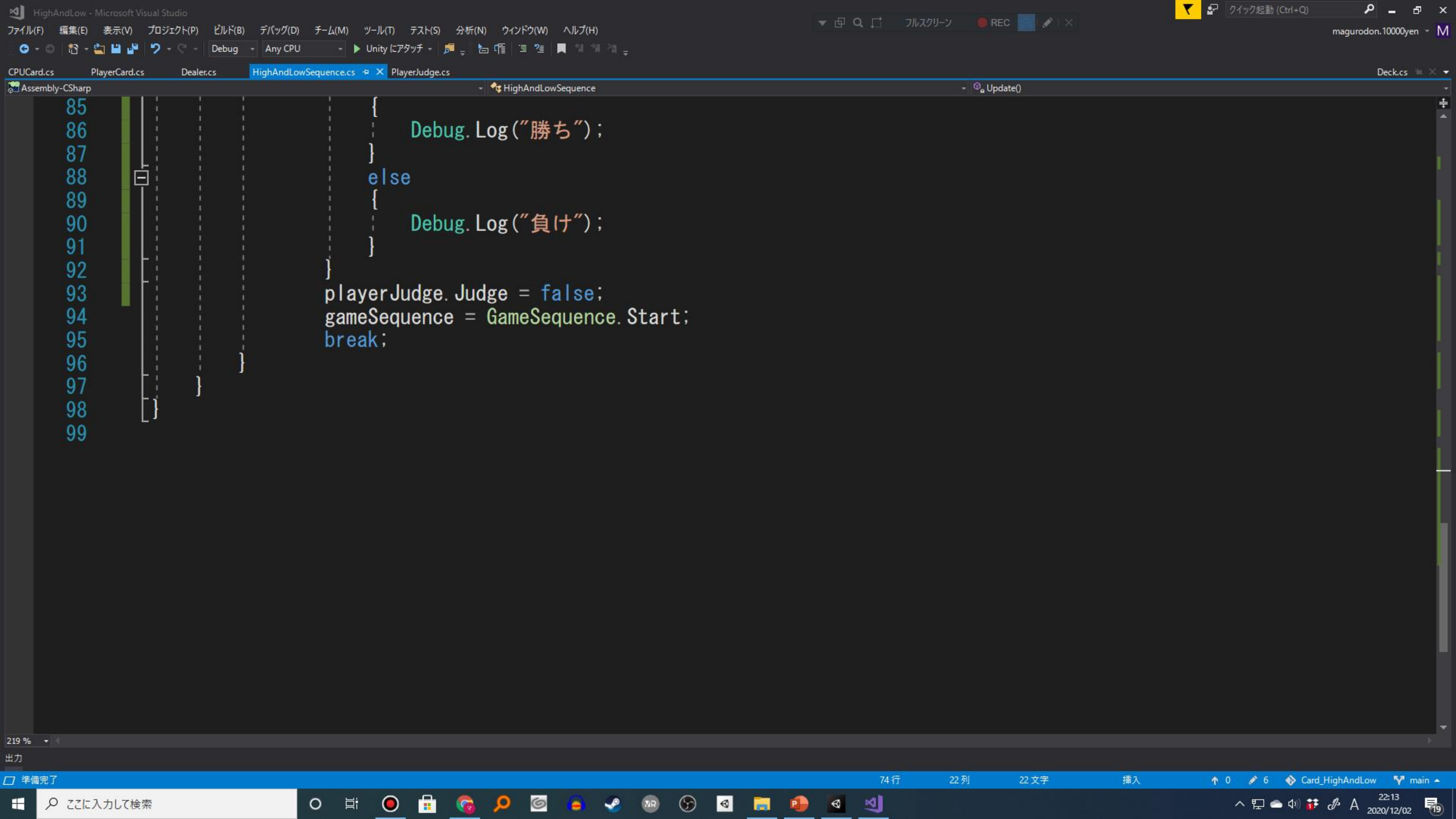
出力

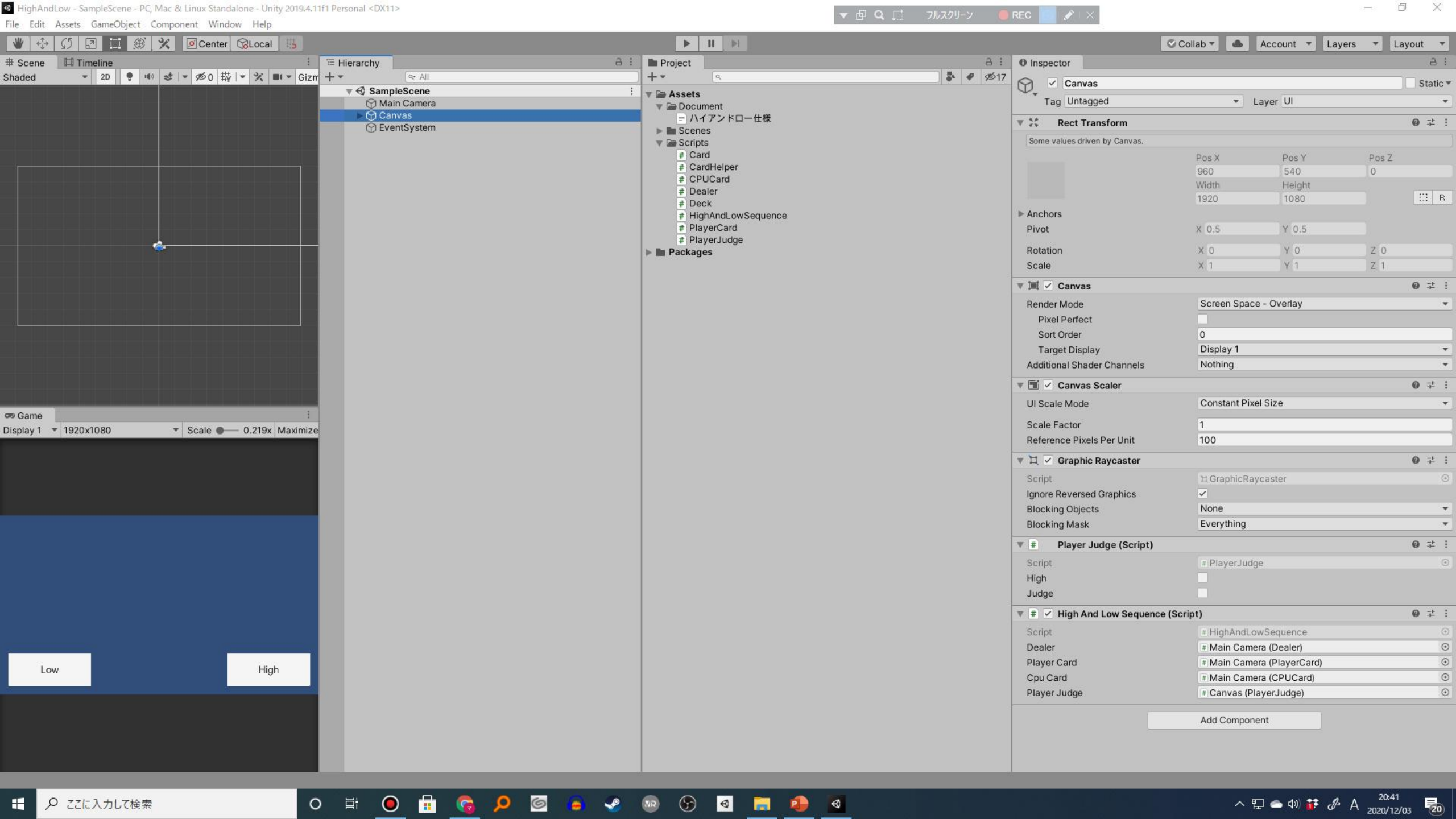
準備完了

74行 22列 22文字 挿入 ↑ 0 6 Card_HighAndLow main

ここに入力して検索

22:13 2020/12/02



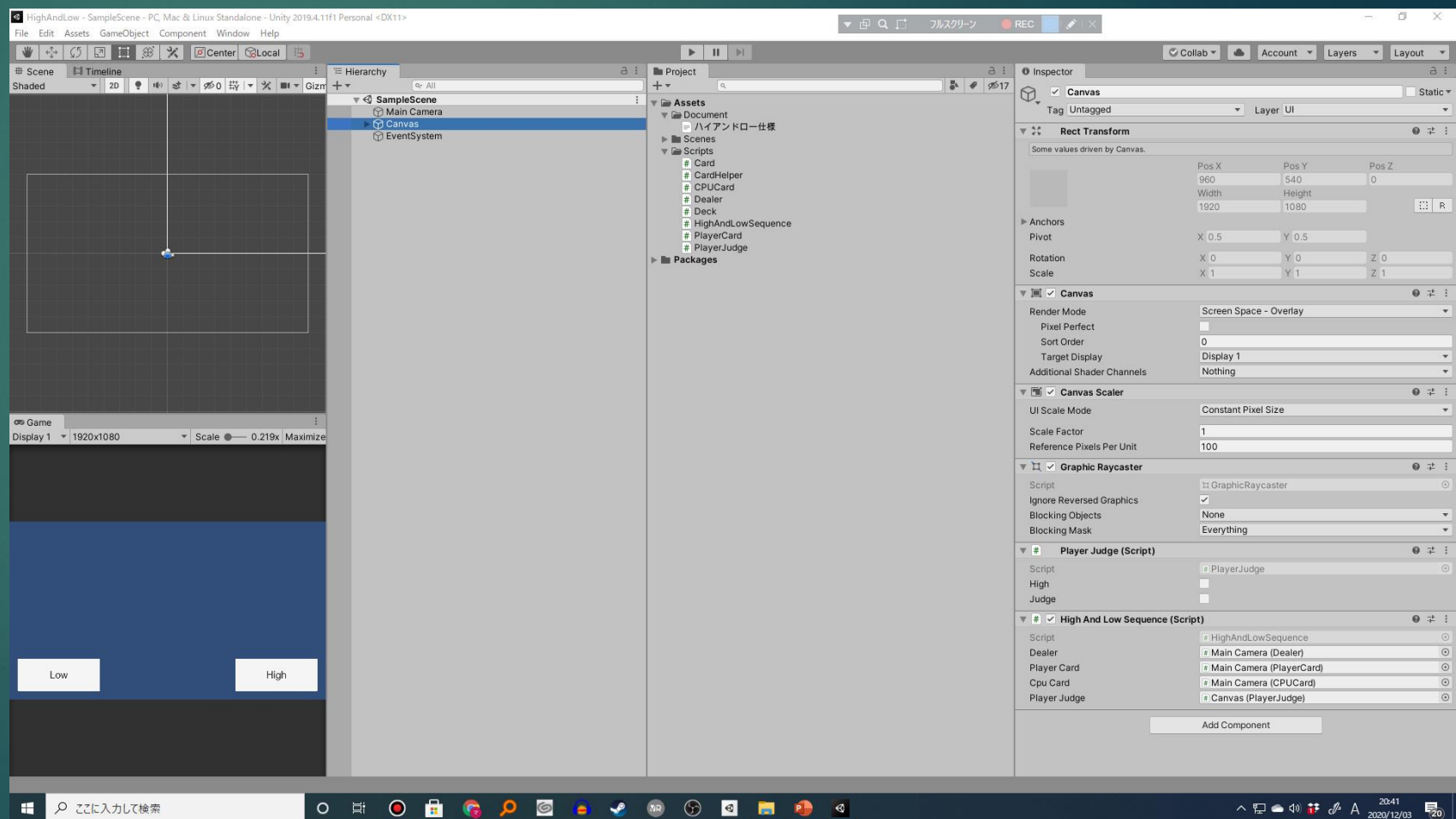


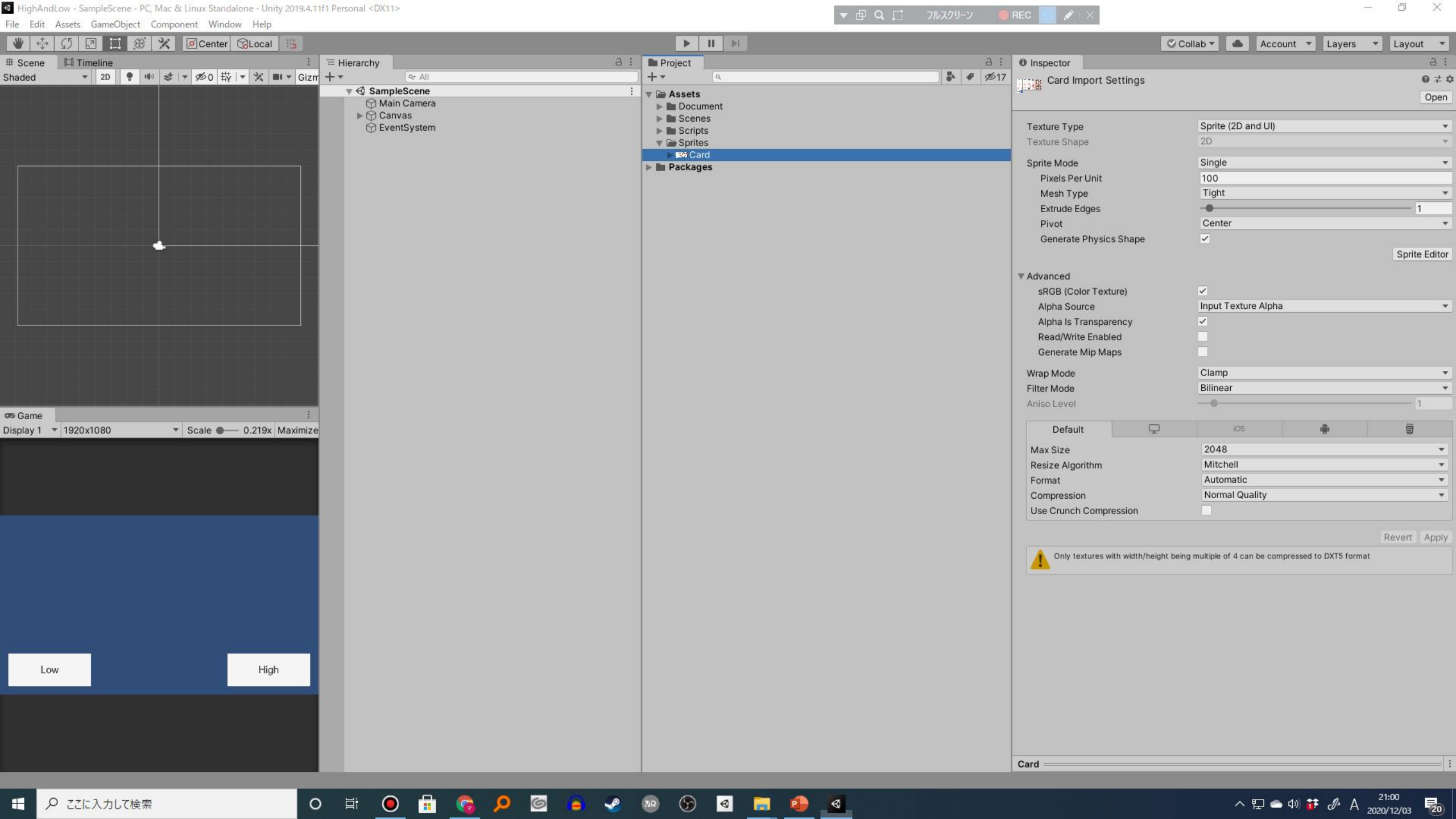
Unity

ハイアンドロー

12

- Unityでの設定を終わらせてプレイしてみてください
- Consoleを見ながら、勝ち負けが正しく反映されているのを確認します
- さて、では実際にカードを表示していきましょう
- Assetsフォルダ直下に新しく"Sprites"というフォルダを作成してください
- 本日お配りしたCard.pngをその中にいれます



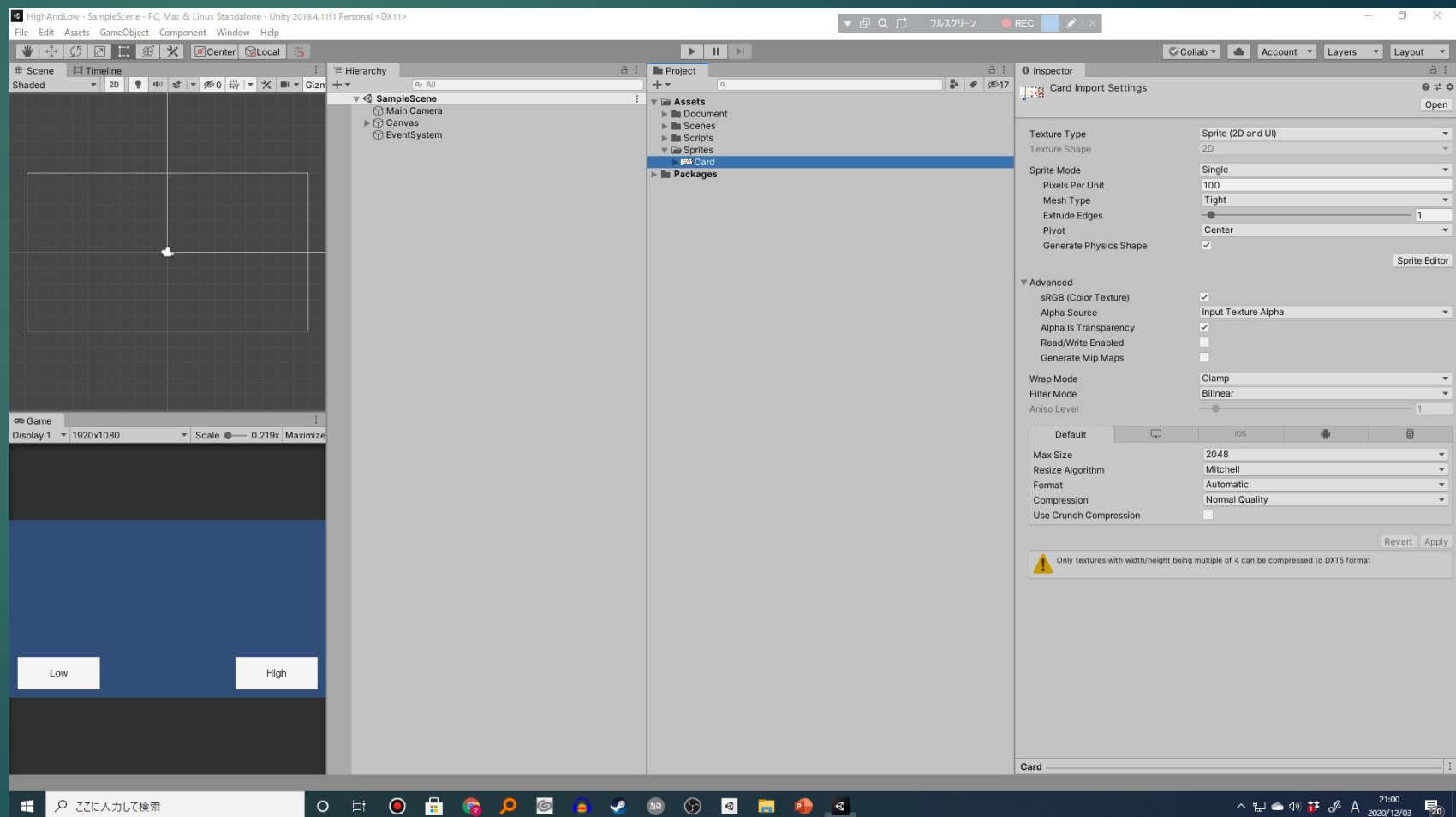


Unity

ハイアンドロー

14

- 今からですが、一枚の画像から複数枚の画像を切り出す作業を行います
- 意外とクライアントエンジニアの仕事になったりもするので覚えておきましょう
- 画像のInspector欄でSpriteModeを"multiple"に変更して"Apply"ボタンを押してください
- できたらSprite Editorボタンをクリックしてください
- SpriteEditorで画像を切り出していきます



Type Grid By Cell Count ▾

Column & Row C 13 R 5

Offset X 0 Y 0

Padding X 0 Y 0

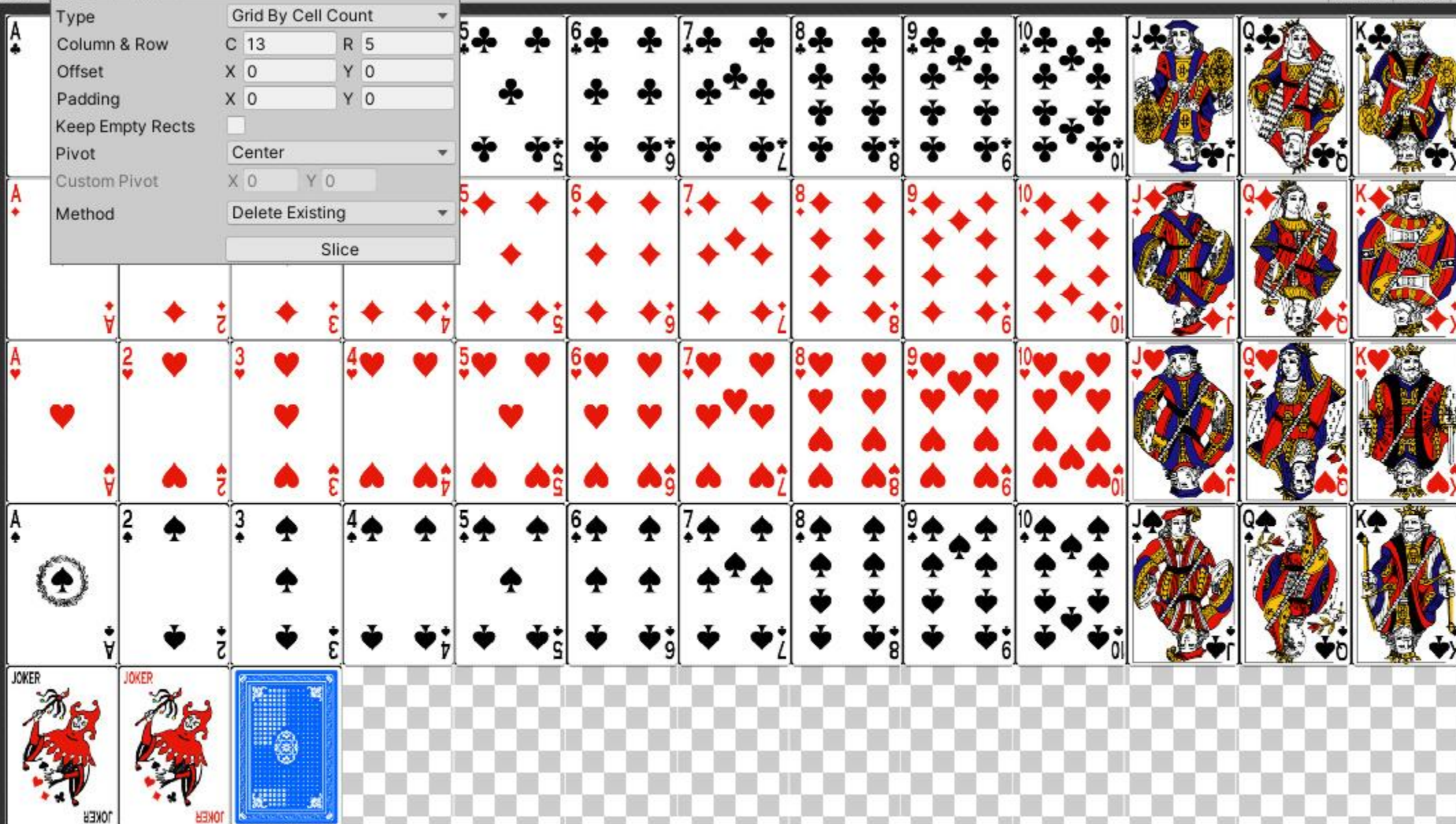
Keep Empty Rects ☐

Pivot Center ▾

Custom Pivot X 0 Y 0

Method Delete Existing ▾

Slice

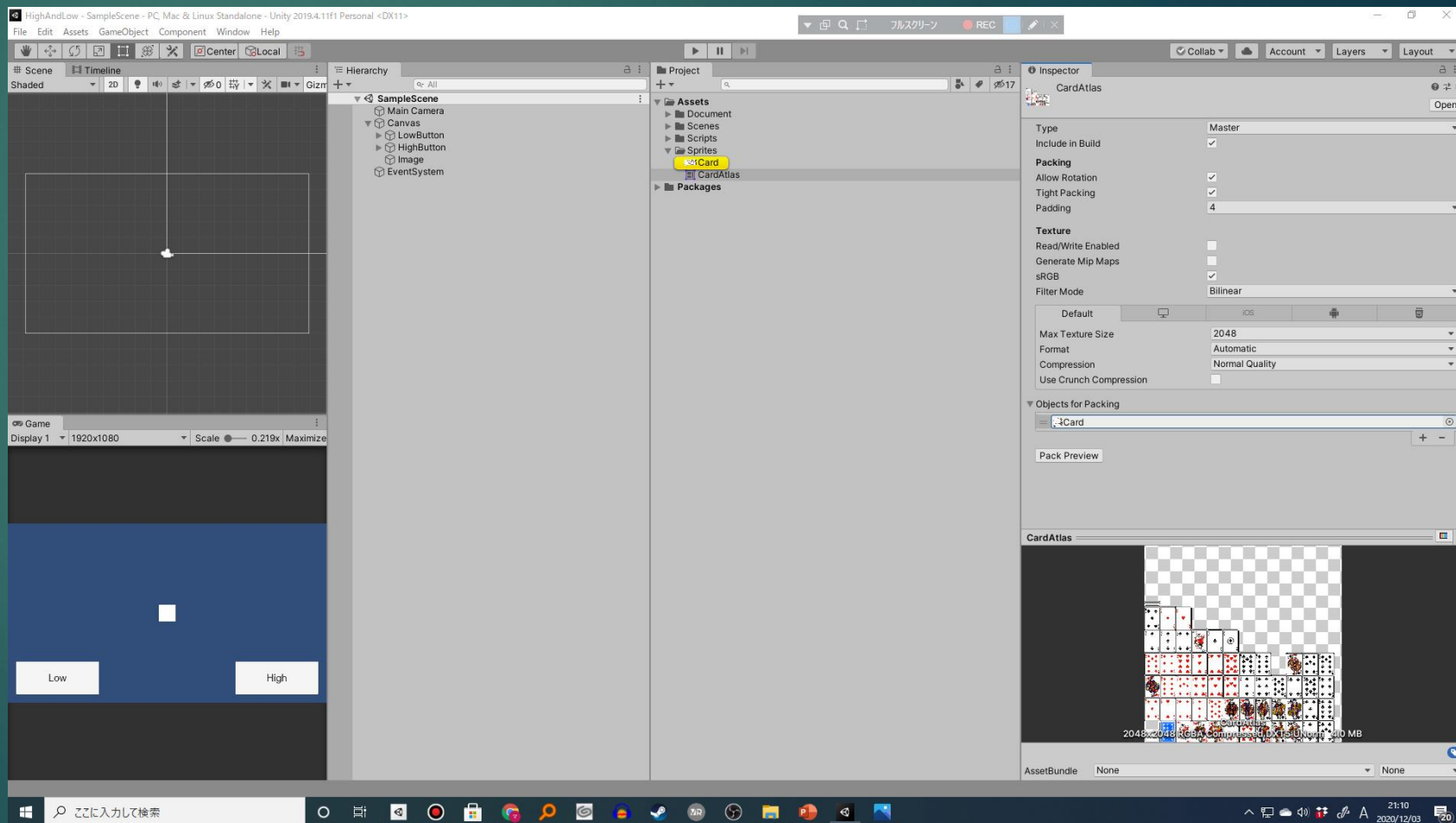


Unity

ハイアンドロー

16

- 先の設定ができればSliceボタンを押してください
- そしてApplyボタンを押すと、Cardの中身が65枚になります
- 次に同じフォルダを右クリックしてCreateからSpriteAtlasを選択します
- 名前を"CardAtlas"として、ObjectsForPackingにCard.pngを指定してPackPreviewをクリックしてください
- ※SpriteAtlasとは
- 画像をパッキングしてくれる機能です。4*4の画素数じゃなくても、自動で4*4のAtlas(画像)を作成し、メモリに優しい画像を作成できます

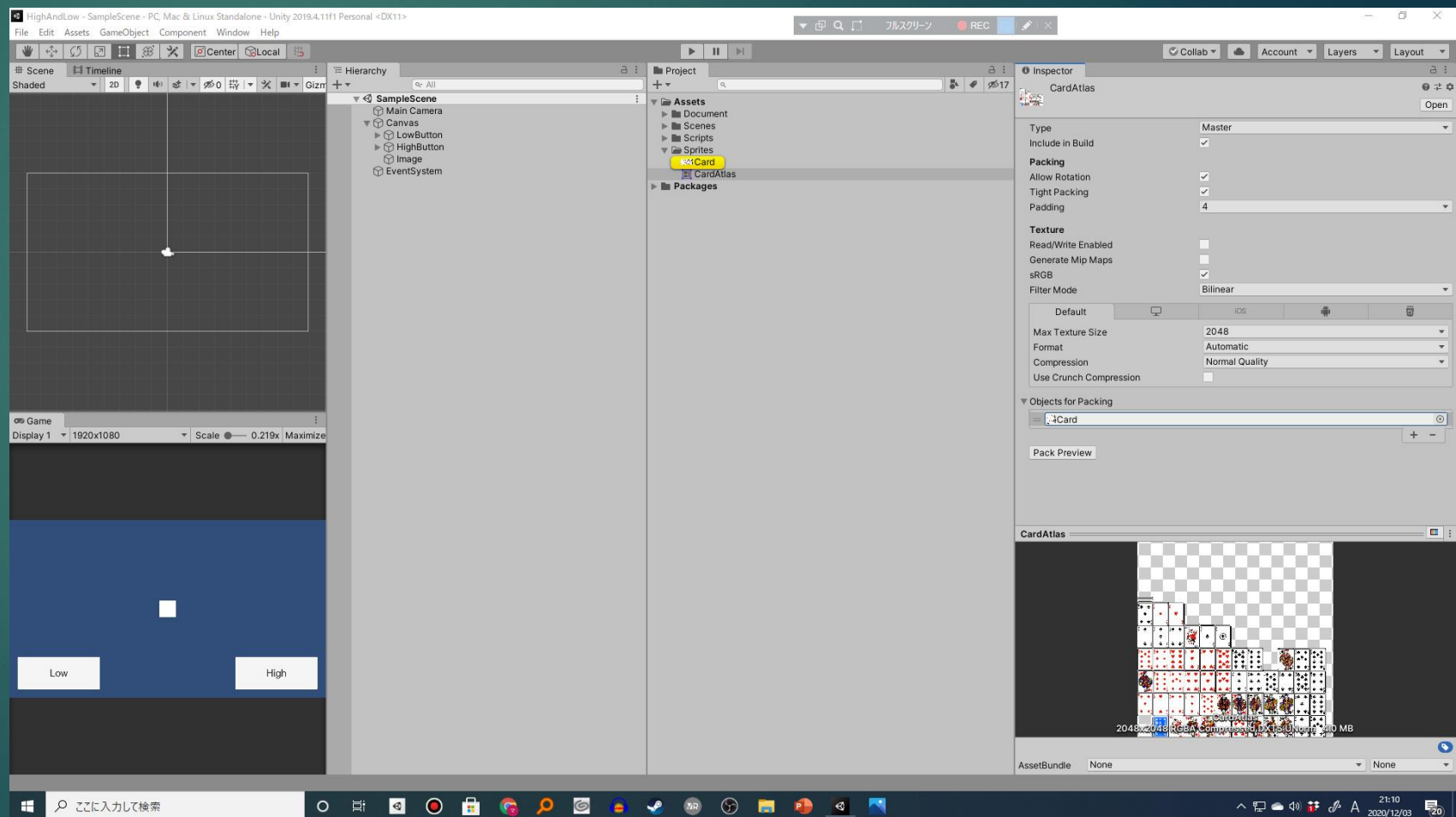


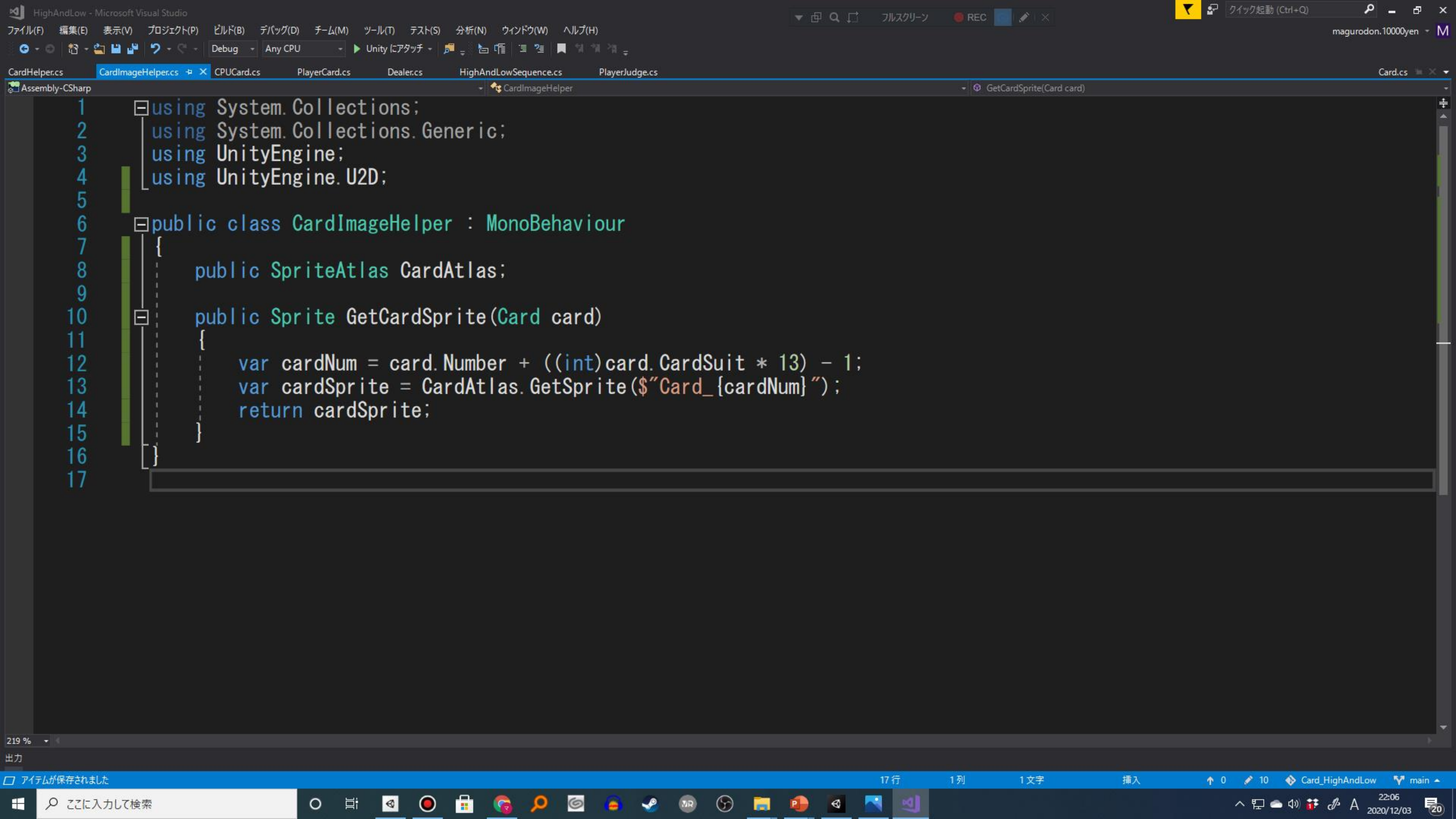
Unity

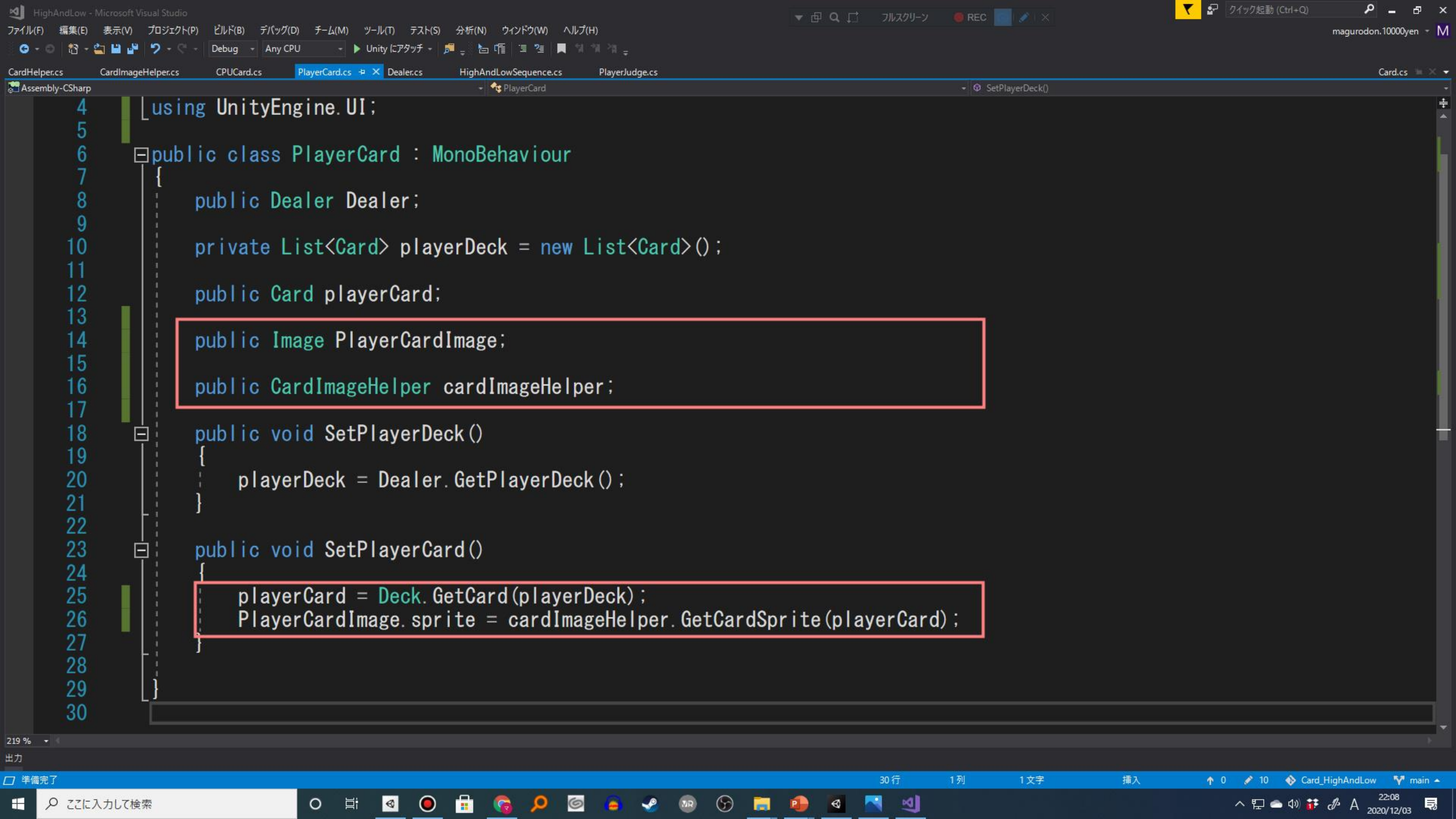
ハイアンドロー

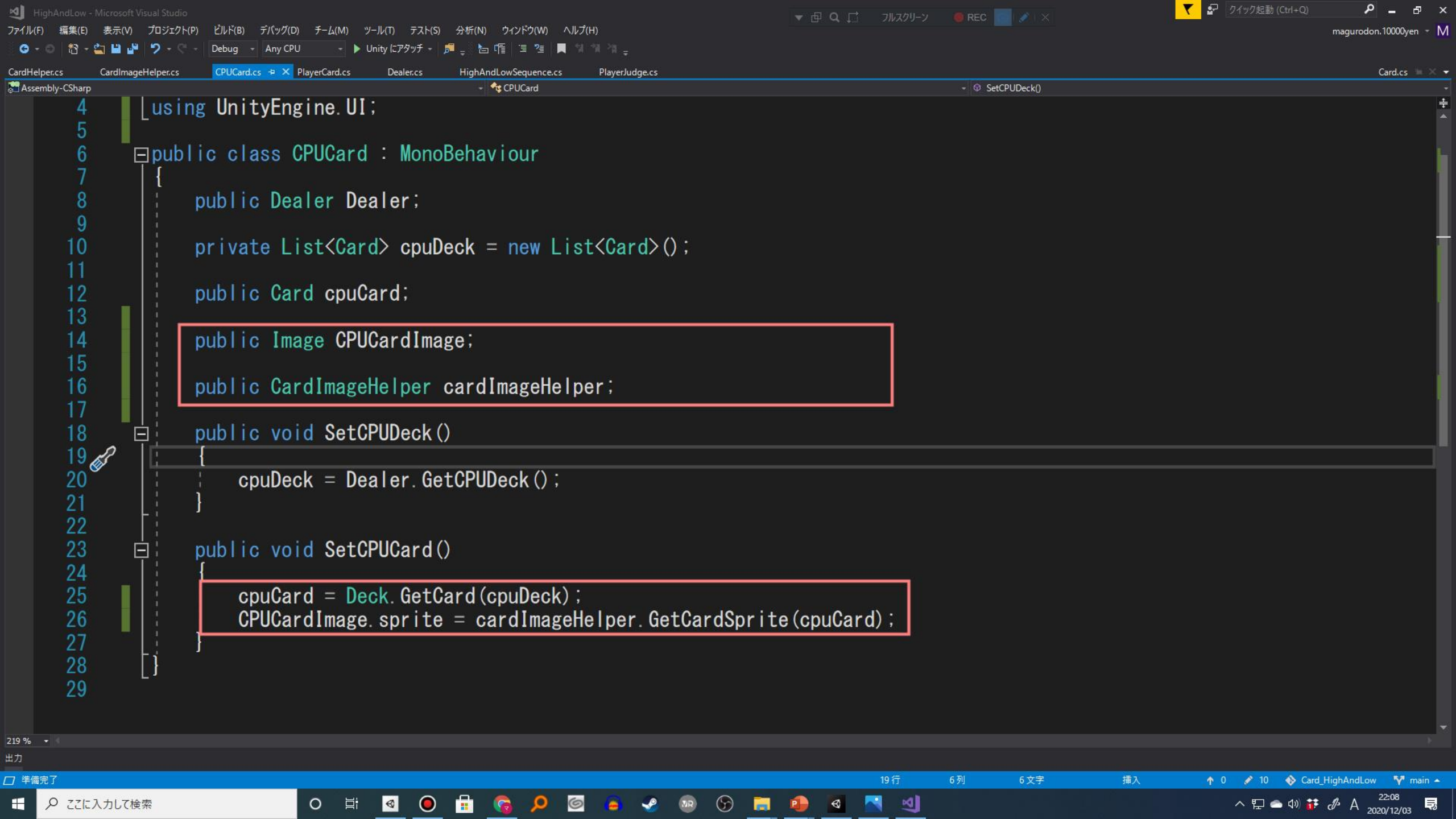
17

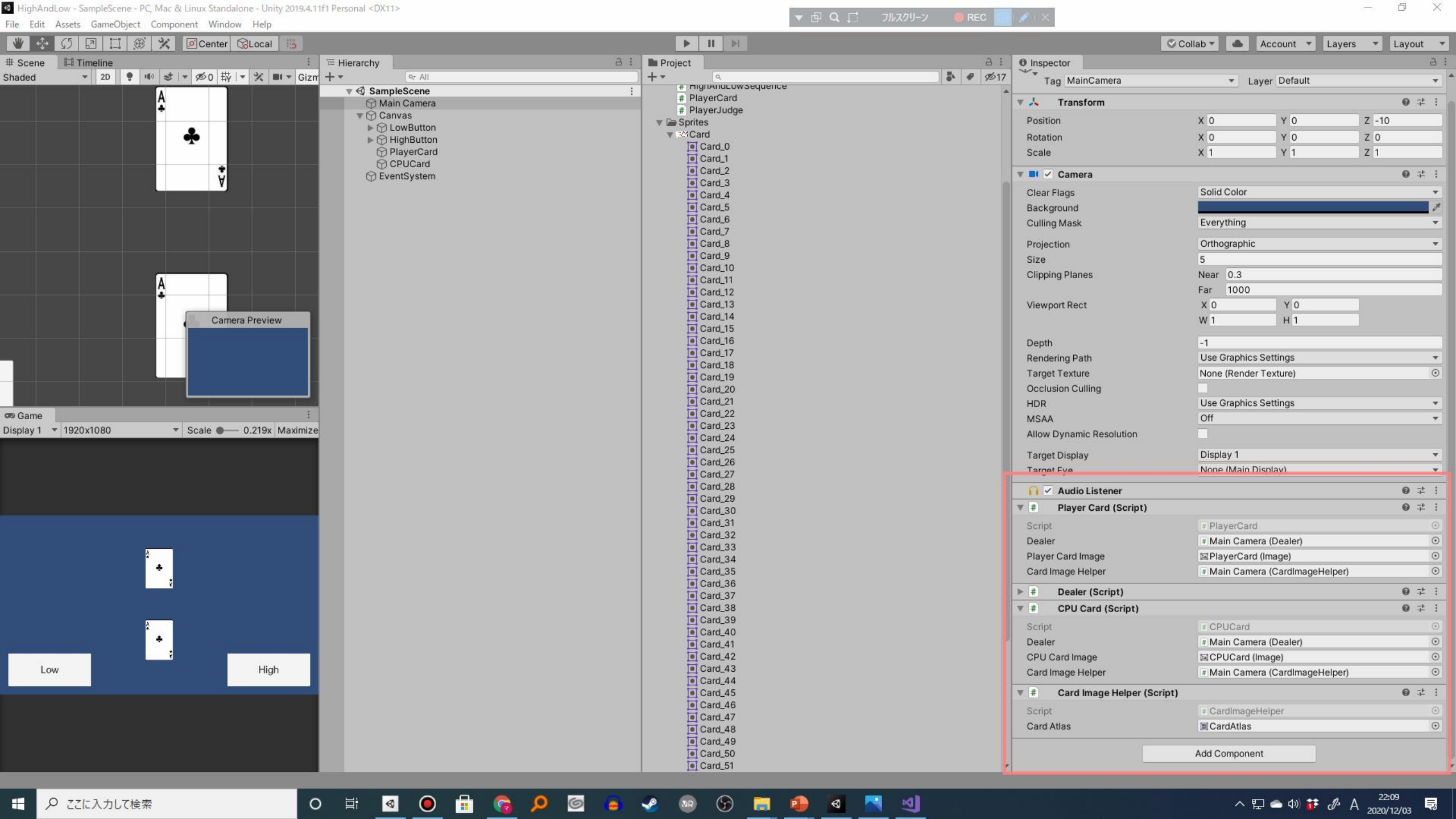
- この画像の塊(SpriteAtlas)から実際に使用するカードの画像を取得します
- Canvas直下にImageを2つ作成し、各々"PlayerCard"、"CPUCard"と名前を付けてください
- 画像の大きさは
- Width:167
- Height:243
- では、新しくCardImageHelper.csを作成し、またPlayerHand.csとCPUHand.csを編集していきます









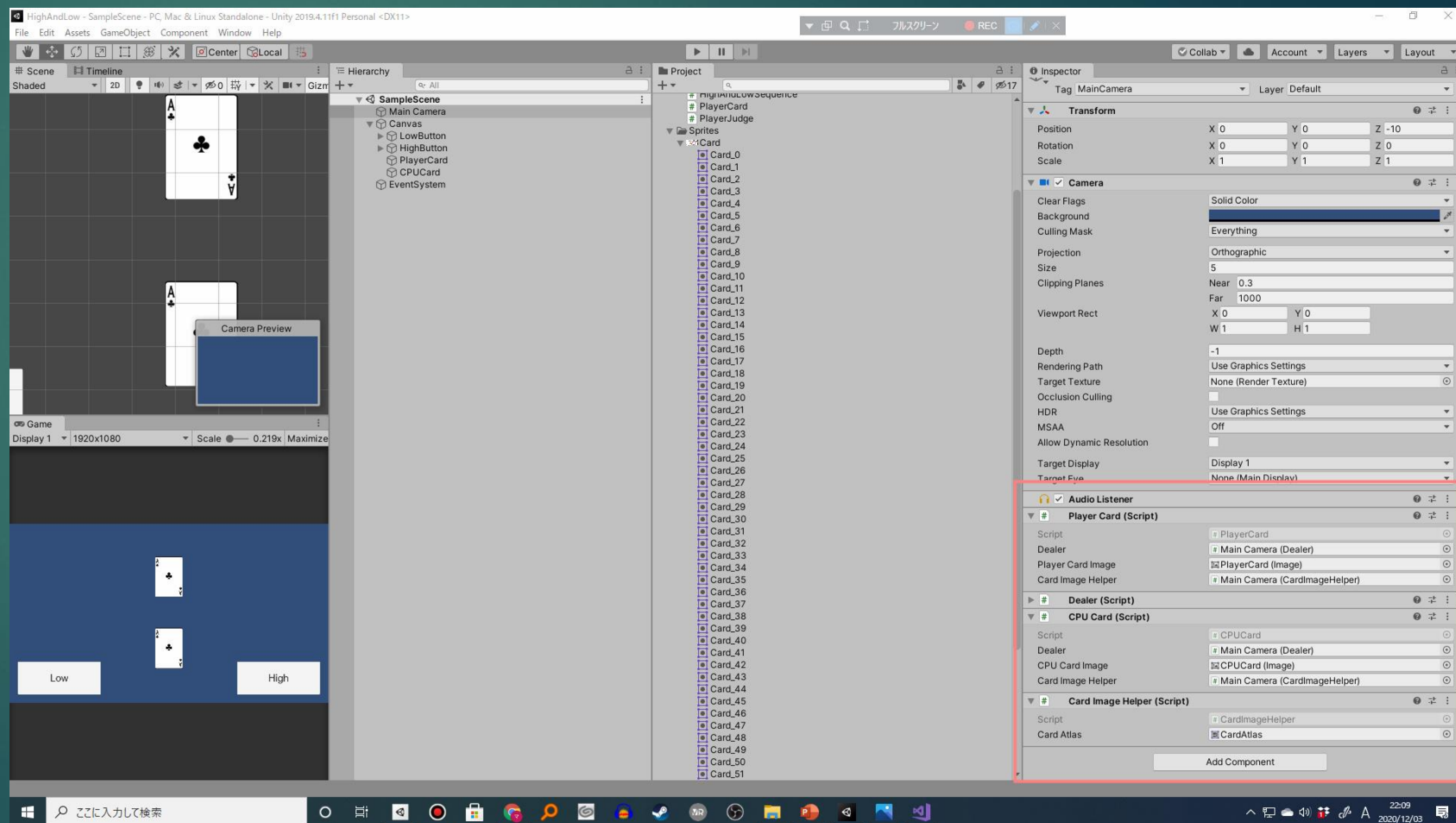


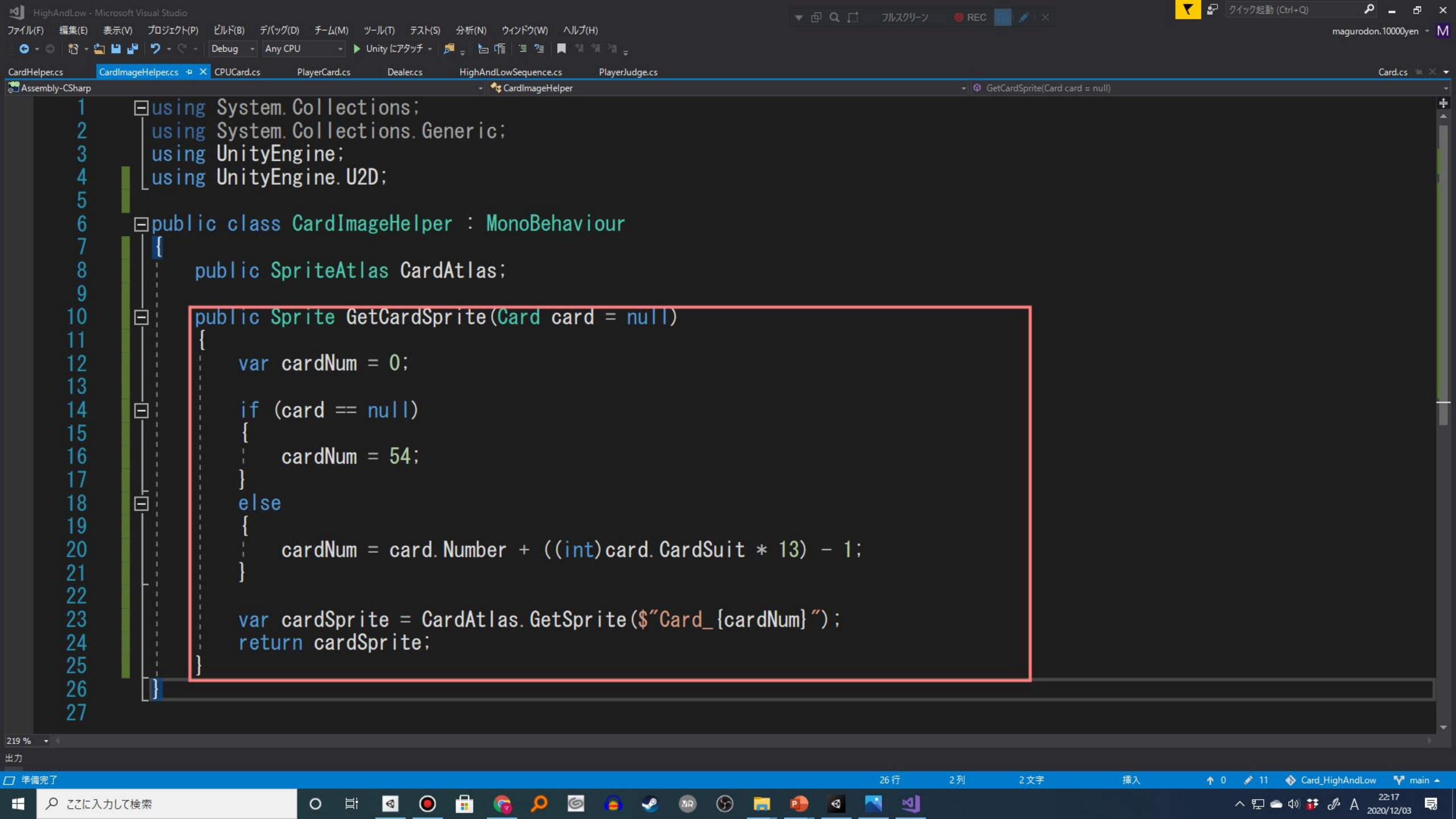
Unity

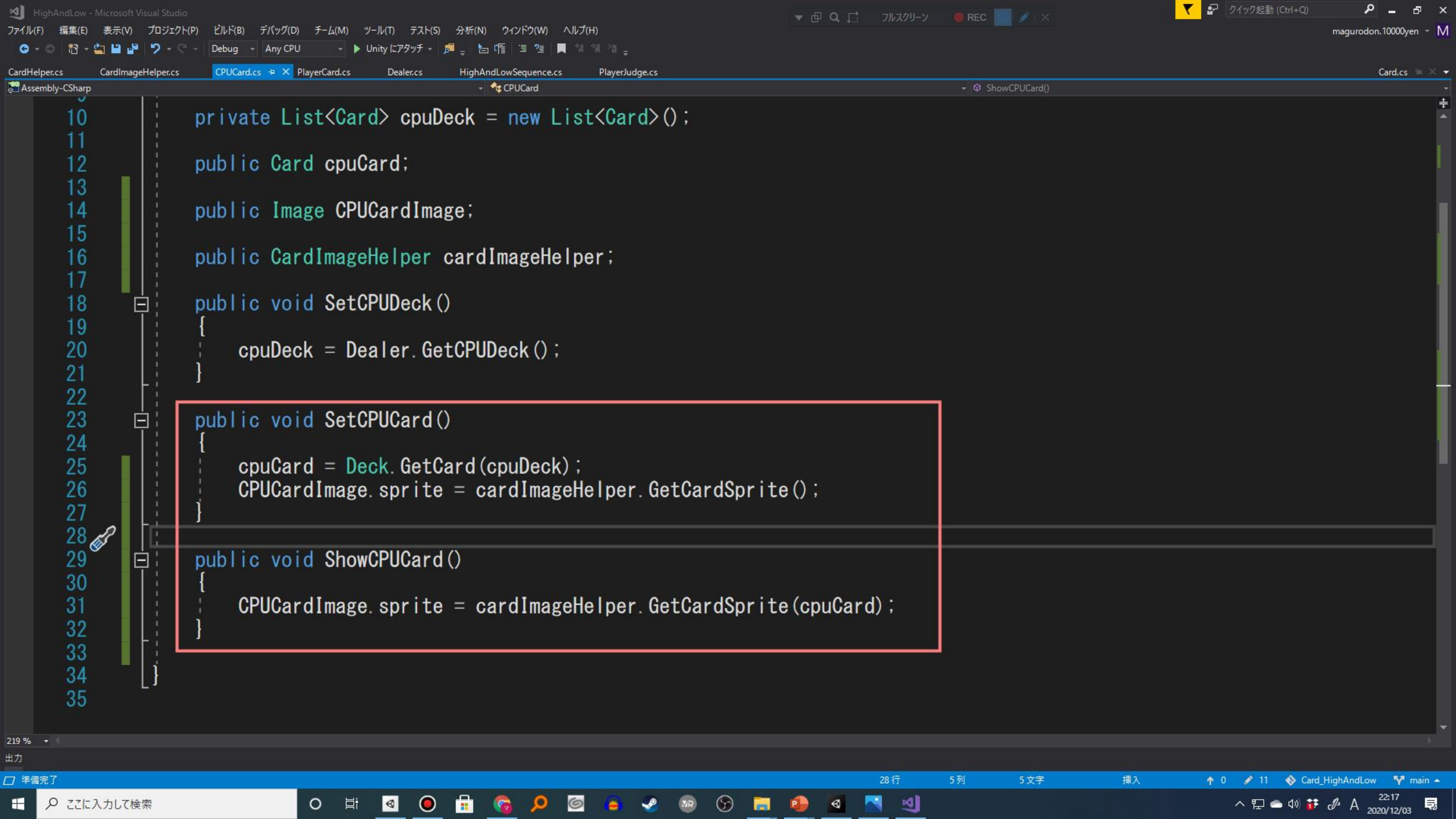
ハイアンドロー

22

- 先の設定が終わり次第、プレイしてみてください
- 二枚のカードが表示されていると思います
- 今の現状ではCPUのカードも分かっちゃうので、これは良くありません
- 隠すためにCPUCard.csとCardImageHelper.csをもう一度編集します
- また、HighAndLowSequence.csも編集しましょう







HighAndLow - Microsoft Visual Studio

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) プロジェクト(P) ビルド(B) デバッグ(D) チーム(M) ツール(T) テスト(S) 分析(N) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

Debug Any CPU Unity にアタッチ

CardHelper.cs CardImageHelper.cs CPUCard.cs PlayerCard.cs Dealer.cs HighAndLowSequence.cs PlayerJudge.cs Card.cs

Assembly-CSharp

55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82

```
Debug.Log(playerCard.playerCard.Number);
Debug.Log(cpuCard.cpuCard.Number);
gameSequence = GameSequence.PlayerJudge;
break;
case GameSequence.PlayerJudge:

    // 数を予想してボタンを押したらShowに進む
    if (playerJudge.Judge)
    {
        gameSequence = GameSequence.Show;
    }
    break;
case GameSequence.Show:

    // プレイヤーが確認したらStartに戻って次のゲーム
    cpuCard.ShowCPUCard();

    if (playerJudge.High)
    {
        if (playerCard.playerCard.Number > cpuCard.cpuCard.Number)
        {
            Debug.Log("勝ち");
        }
        else
        {
            Debug.Log("負け");
        }
    }
}
```

Update()

219 %

出力

アイテムが保存されました

71 行 17 列 17 文字 挿入 ↑ 0 11 Card_HighAndLow main

ここに入力して検索

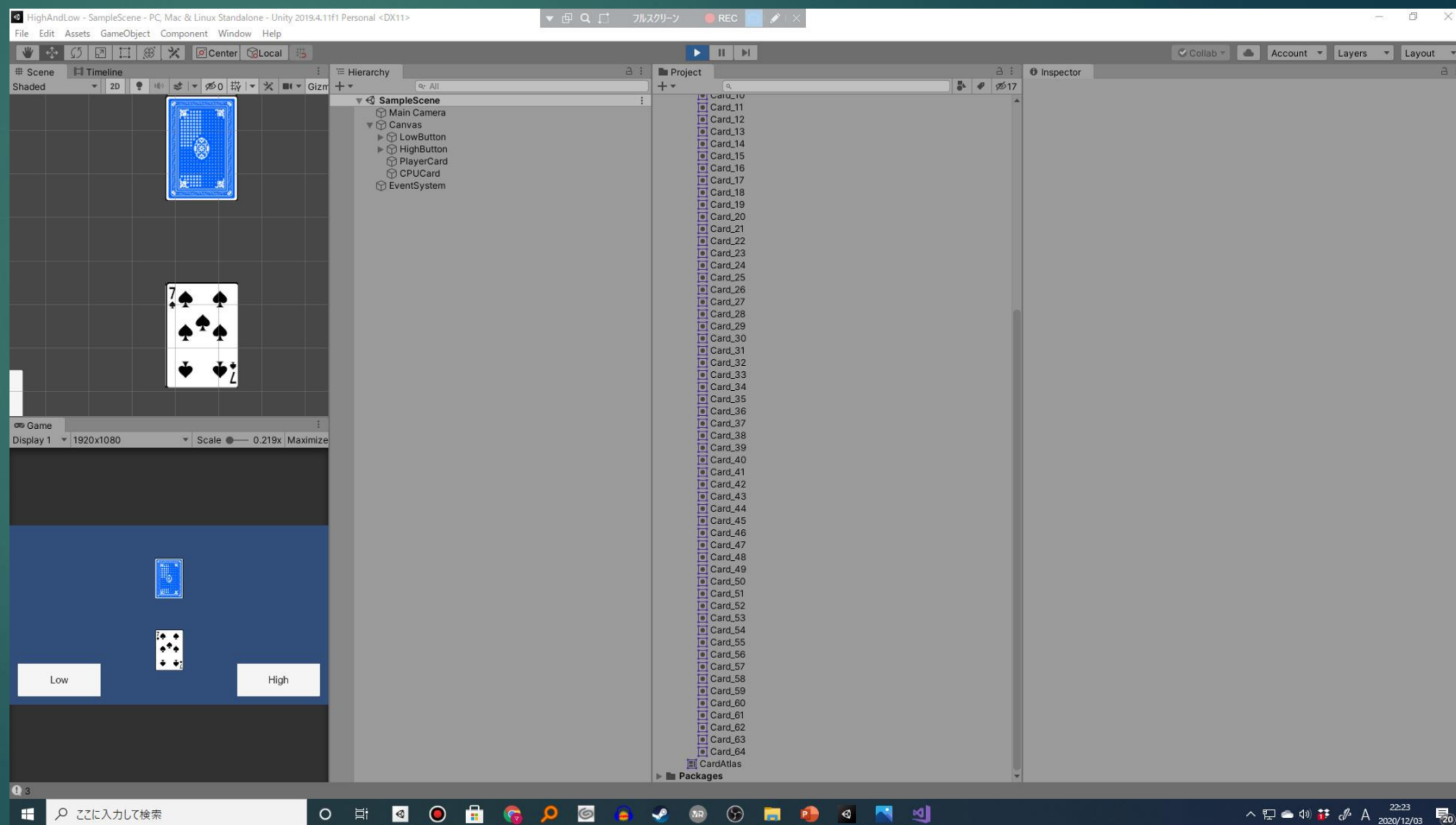
22:17 2020/12/03

Unity

ハイアンドロー

26

- これでゲームの進行があらかた完了したと思います
- Consoleを見れば、勝ち負けが分かるようになっております。
- では実習です。
- ここでUIを使って、勝ったときは"Win"、負けたときは"Lose"と表示してみてください
- Scriptは新しくGameJudge.csを作成します
- その中で結果を表示するメソッドを作成し、HighAndLowSequence.cs内で呼び出してください



Tips : Listや配列の利用方法

27

- リストや配列は本当によく使われます
- ひと昔前は
- [1,0,0,0,0]
- [1,1,1,1,0]
- [0,0,0,1,0]
- [0,0,0,1,2]
- これでMap等を表現していました(0が進行不能、2がゴール)
- ちなみに上は多次元配列と呼ばれるものです